

8－9					
主 題	外国人材の日本語能力向上および介護技術向上のための 生成 AI を用いた学習プログラムに関する質的研究				
副 題	なし				
キーワード 1	外国人材	キーワード 2	生成 AI	研究(実践)期間	48 ヶ月

法人名	(株) やさしい手	事業所名	なし
発表者(職種)	鈴木映美(部長)		
共同研究(実践)者	なし		

電 話	050-1742-8462	FAX	050-3730-8925
-----	---------------	-----	---------------

事業所紹介	当社は、高齢者が住み慣れた地域で在宅生活の継続ができるよう、生活の不安や課題の一つひとつを安心に変えるために、在宅介護サービスを提供している。 2020 年より、海外からの外国人材の受け入れをスタートし、専門職としての活躍支援と定着のためのキャリア開発に力を注いでいる。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

日本語能力の向上のためには、単に、介護サービス提供に必要な日常業務の手順や方法の指導をメインとした教育だけでは十分ではなく、日本語能力の向上や介護職員としての専門知識の学習機会を提供する必要がある。

受け入れ企業としては、業務習得を軸とした教育ばかりではなく、母国の情勢不安がある者や、介護サービス提供のルール理解の難しさ、そして、母国との文化慣習の違いを理解する上での苦悩や様々な心境を受け止め、安心して働くことができる環境を提供したい思いを伝えることが、外国人材の自律的学習能力の向上に必要である。

具体的な項目として、日本の文化慣習の理解、日本語での専門用語の理解、介護過程の理論的理解、多職種連携の理解と実践、自事業のサービス提供の役割理解、利用者が抱える疾患に基づく利用者理解など、様々な能力向上支援の必要があった。

日々の介護記録においては、介護職員の対応結果がメインとなる内容だけでは、観察やアセスメント力の向上に十分活用しきれない課題があった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

目的: 段階的な日本語能力向上と介護知識習得の支援により、介護現場での活躍を促進する。

仮説: 日本語能力を向上のための、介護記録を活用したフィードバック形式の学習により、業務遂行能力および自律的学習能力が向上する。

また、日本語能力 N2 に近いレベル以降からは、生成 AI を活用した支援を行うことで、さらなる表現力向上を可能とする。

そして、生成 AI による個別化された学習支援は、外国人材の日本語能力や介護スキルを向上するために必要な「自律性」にも大きく影響する。

《3. 具体的な取り組みの内容》

初期学習（N3 レベルまで）：毎週 30 分のオンラインミーティングによる、日本語指導と介護記録を残すためのフィードバック。

- ・日本語能力向上（文法、語彙、表現力）の基礎学習
- ・介護過程や、利用者が抱える疾患に基づく利用者理解のための実例学習
- ・多職種連携のための実例学習

中期学習（N2 レベル相当）：毎週 30 分のオンラインミーティングによる、認知症ケアや老年症候群の症例学習を取り入れ、多職種連携の理解を深めるためのフィードバック。

- ・外国人材が残した実際の介護記録を元に、表現や内容の改善提案を受ける実例学習

後期学習（N2 以上）：毎週 30 分のオンラインミーティングによる、生成 AI を活用した、自己表現力や日本語での記録能力を強化するためのフィードバック。

- ・外国人材が残した実際の介護記録を元に、観察やアセスメントの経過を言語化するための事例学習

《4. 取り組みの結果》

- ・9 名中、5 名が N2 を取得。
- ・9 名中、2 名が介護福祉士合格、2 名が介護福祉士実務者研修修了、5 名が介護職員初任者研修修了。
- ・日本語能力向上および介護技術向上により、多職種連携に必要なコミュニケーション機会に、自律的に参画できている。

《5. 考察、まとめ》

日本語能力向上および介護知識強化には、段階的かつ実務に即した学習支援が有効である。特に、N3 レベルでは日本人従業員からのフィードバック学習が基礎知識の定着に効果的であり、日本語能力の向上を基盤とすることで、介護過程や疾患理解が深まり、業務の質が向上した。

N2 レベル到達後の生成 AI 活用支援では、表現力や課題解決能力向上に寄与し、自律的な学習能力を高めることが明らかとなった。

対面フィードバック学習と AI 活用の学習プログラムが、外国人材の育成において有効であることが示唆される。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答を以て同意を得た。

《7. 参考文献》

- 1) 小川美香,「外国人介護人材の「コミュニケーション力」再考」176 巻, 2020 年,p.64-78
- 2) 亀山純子, 橋爪祐美, 柳久子,「外国人介護職者の国家資格取得に向けた教育支援に関する質的研究」63 巻,2021 年,p.133-142
- 3) 大槻薫子,「介護現場で働く外国人材の介助場面にみられる言語使用上の課題」日本語教育方法研究会誌 Vol.27 No.1,2021 年,p.6-7

《8. 提案と発信》

介護記録に基づく、段階的な日本語能力向上および介護技術向上支援のアプローチは、外国人介護職員育成の標準モデルとなり得る。

本プログラムの実践により、多文化共生社会における質の高い介護サービスの提供が可能になることを提案する。